

浜コ三協だより

第10号

この広報誌は新潟市の地域活動補助金を受けて発行しました。

災害時あなたは何処へ避難しますか？

防災部会
部会長

大坂利夫

地震や津波による自然災害が発生した時、地域住民は避難をし、災害時の自助・共助の重要性と日常の全ての防災に役立たせる為に、当浜コ三協が初めてアンケートを実施しました。

この結果、各避難所とも、想定をはるかに超える人(数倍)が集まること示され、今後の大きな課題となりました。

この課題解決のために、以下の対応策を検討したいと思います。

1. 「非難運営マニュアル」の作成

災害時に行政・施設管理者・自主防災組織・コミュニティ協議会と地域住民が連携して、円滑な非難所運営を行うためです。

2. 「防災訓練」の実施

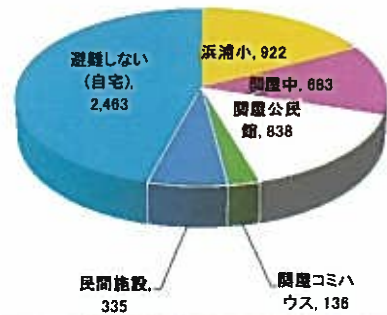
防災訓練は、いざという時に的確な対応をとるために欠かせないものです。地域の人たちの参加を呼びかけ、地域一丸となって防災訓練を行い、自分たちの街は自分たちで守るという気持ちの醸成が常日頃から大切です。阪神・淡路大地震時には、地域住民が自発的に救出・救助活動をして被害の拡大を防ぎ、その後の復興に大きな力を発揮しました。これも日頃からの「防災訓練」の賜物です。

浜浦小学校区コミュニティ協議会 アンケート結果

自然災害時にあなたはどこへ避難しますか？
回答数 5,377人

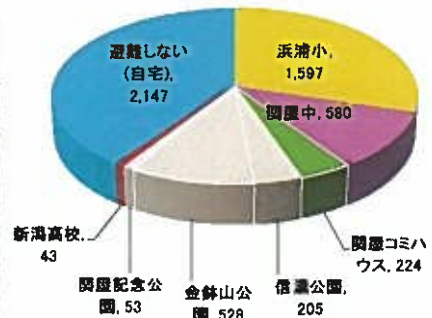
津波時避難場所

数字は避難人数です



地震時避難場所

数字は避難人数です





平成25年度の火災予防活動 11月9日～15日
平成25年度火災予防活動一環 浜浦地区の「ON」のまち

一瞬の油断で金も失うよ

表彰状
濱浦地区防火連合会
表彰状
濱浦地区防火連合会
表彰状
濱浦地区防火連合会

平成25年度新潟市防火連合協議会定期総会が7月4日(木)新潟市万代市民会館にて開催されました。

今年度の重点目標は「住宅防火対策の推進・防火組織の強化・婦人防火部の強化・自主防災組織に対する支援及び協力」です。

日頃から各自治会での防火座談会の開催・初期防火訓練等の実施・自主防災体制の確立・婦人部防火部の育成強化を図るために「身の回りの防災化の推進」防火講座に参加をし、消防と地域住民との防火活動連携体制を築き、防災に対する意識の高揚を図った結果、800日無火災で消防庁表彰を濱浦地区防火連合会が表彰されました。

これからも各家庭において外出する際のコンロの火の消し忘れ、ストーブ等の火災の発生に注意をし、防火無火災活動推進に努めましょう。

800日無火災表彰 濱浦地区防火連合会会長 大坂利夫



昨年、十一月二十七日閏屋公民館講堂にて高橋区長さん星地域課長、関係長さんをお招きし、前年に引き続き浜コミ協との意見交換会を行いました。初めに高橋区長さんから平成二十五年度中央区の区政方針と主たる事業の経過について報告頂いた後、家坂会長から当浜コミ協の活動状況と今後予想される課題が提起されました。その後、各自治会長さんから順番に自治会で困っている事等、率直な意見が交わされました。

初めの区長さんからの説明をまとめると ● 災害に強い地域作り ● 助け合いによる地域作り ● まちなか賑わい創出の

中央区長との意見交換会 浜コミ協 副会長 中静浩一



▲オカリナ・ドレミ



▲女性コーラス「コール・ドルチェ」

浜浦地区と近郊にお住まいの65歳以上の皆様がお茶を飲みながらおしゃべりをしたり、地域でサークル活動をされているグループの方の歌や踊り、演奏などを楽しみながら親交を深めています。土曜の午後のひと時をぜひ一緒にしませんか？

日時 毎月第4土曜日 13:30～16:00
場所 関屋コミュニティハウス
会費 100円(お茶菓子代)

福祉教育部会会長 渡部 俊尚
浜浦地区民生委員児童委員協議会
浜浦地区社会福祉協議会

地域のふれあいサロンを「紹介します」 (浜浦ひなたぼっこ会)

推進 ● 地域コミュニティ協議会の活性化 ● 区役所窓口改善運動の推進等々その経過と実績について資料に基づき詳細な説明を頂きました。最後に「合併から九年経過してパランスのよい町づくりも一段落し、現体制は道半ば、来年からは新しい総合計画に基づいて実施することになるのでその為本年中にその原案作りに着手しなければならぬ」との話もありました。(本年十一月市長選挙)

各自治会長からの主たる要望事項としては、防災・防犯・防火・地震・津波対策に伴う要望が大半を占めました。● 防犯灯・海抜表示板の設置 ● 市独自のハザードマップの作成 ● 防災訓練で利用する公園での火気取扱い解釈等

次に高齢者支援として ● サービス高齢者住宅の設置 ● 要援護者申請の方法 ● 高齢者支援Q&Aの作成 ● 高齢者に優しい屋根付きバス停の設置 ● 要望などその他今話題のBRT反対や慎重論・拙速論の意見も数多くありました。

BRT運行計画 浜コミ協 会長 家坂博幸

新潟市の都市交通政策課、新交通推進課、新潟交通(株)の方々にお越しいただき、計画の説明と意見交換会を開催しました(平成25年6月)。又、9月にはBRT沿線コミ協向けの試乗会に当コミ協から5人が参加しました。BRT運行の主な課題を挙げると、(一)公設民営方式による税金の負担増 (二)ゾーンバスシステムによる乗換えの不便さ(待ち時間、冬場対策) (三)ラッシュ時、冬季の渋滞対策(片道二車線の路線) (四)これまで新潟市は郊外分散型の公共施設を建設してきたなかで、はたしてBRT計画で市が期待している、高齢者のマイカー離れを促し、乗客数増に結びつけることができるのか。必ずしも市民のコンセンサスを得ていないようです。



しかし、昨年12月、市議会でも可決されました。今後は、市側は指摘された課題を検証し、市民への丁寧な説明が求められます。



耳よりな話シリーズ その2 地震計

浜浦地区の遊歩道沿いに東屋があります。そこから眺める日本海の夕日は絶景です。この東屋に隣接した囲いの中に、白い物体(?)が置かれております(写真)。これは全国で千ヶ所に設置されている「強震観測網(KINET)」の一つです。被害を及ぼす強い揺れを観測して、筑波にある防災科学技術研究所に瞬時にデータが送られ、地震ハザード、被害リスク評価等の研究に役立てられております(平成10年度設置)。地域にありながら、我々の知らないところで、地道に観測を続けている地震計。一度訪れて、ご覧ください。

耳よりな話シリーズ その2 地震計 浜コミ協 会長 家坂博幸

昨年、九月二十五日閏屋公民館にて意見交換会を開催しました。戸嶋係長、防災課職員若杉職員、川上職員をお招きして浜浦小学校区コミュニティ協議会会員全員が出席して活発な意見を交換いたしました。新潟市の防災の主な取り組みについて

- 1 避難所運営の充実・強化
- 2 市民への情報伝達手段の強化
- 3 津波避難対策の強化等 数項目が説明された

新潟市避難所運営マニュアルが作成された地域住民・施設管理者・行政の三者が協力して、避難所を円滑に運営することを目的とし「初動対応編」・「復旧対応編」に分けて対応するお話をいただきました。



浜コミ協からの防災対策に対する意見・要望

- 1 避難所の基本的な手引き書発行と内容について 中学校区ごとの津波避難地図を基に地域が自主的に書き込んでゆく
- 2 津波浸水想定図の遅れと今後の修正内容と発表の時期について
- 3 防災会議に関する条例改正内容について
- 4 緊急告知ラジオ活用と増設した実績例
- 5 災害監視カメラの役割と増設について
- 6 防災マップ(平成十一年)洪水避難地図(平成十八年)津波想定図の総合版?

特に津波浸水想定図の遅れと津波対策に対する要望意見が多く出されました。県としては十月中旬に地震のマグニチュードに合わせた津波想定図を委員会に提出し結論を出して取りまとめたいとの事でした。新潟市もそれを基にして活用する旨の説明がありました。

新潟市危機管理局との意見交換会 防災部会会長 大坂利夫

特集 未来へつなぐ森づくり in 浜浦

浜浦小学校区コミュニティ協議会（浜コミ協）会長 家坂 博幸

新潟地震の被災者のために、保安林を伐採して建てられた汐見台市営住宅が、その役割を終えたので、浜浦小学校区コミュニティ協議会は、もとの保安林に復元することを中央区自治協議会の総意としてお願い致しました。中央区は、この地域の海岸林活用検討委員会を開催（5回）し、汐見台住宅跡地から関分公園までのエリアを、保安林機能をもった公園にすることを決定いたしました（平成22年）。

浜コミ協の松林づくり

「NPO阿賀の会」の協力を得て、二ヶ所の松林を整備しています。

（一）関屋分水記念公園の通称「タコの公園」裏

夏の炎天下に公園で遊ぶ子供達の憩いの場所として、ニセアカシア群を抜根した後、松の苗木を移植（平成22年）。しかし冬の強風で約半数が飛散、再度大きめの苗木を植える（平成25年）。

（二）ネムの森に隣接するアカシアを伐採・抜根（平成24、25年）

風通しがよくなり、松も元気をとり戻しているようです。海岸清掃の時には、ボランティアの方々が、松林に入っ て鳥取り、小枝集め等を行いました。子供達が遊べる緑の空間に変わりつつあります。



▲ボランティアによる森林清掃



▲タコ公園の松の苗木植樹

きれいな森づくりに汗

浜浦小学校の「学校の森」である、自然学習林「ネムの森」もジャングル化が進んでいました。

森林生態学が専門の新潟大学、中田教授に指導を仰ぎ、2年計画で、残すべき樹木を選別した上で間伐作業をしております。又、浜浦小学校育成会、塚田6学年委員長の

発案で、6年生に森に入って整備の体験をしてもらいました。

「いまの大人が本気の汗を流し、未来の大人にふるさとを託す場、それが学校の森です」（新潟日報）。参加した保護者さんも、こんな気持ちで子供たちと一緒に汗を流していたことでしょうか。



▲中田先生の話しを聞く児童達

第65回全国植樹祭プレイベント 緑の百年物語フェスティバル

第65回全国植樹祭のプレイベントとして、「汐見台市民協働森づくり」が10月19日（土）に、浜浦小学校を会場に開催されました。浜浦小学校区コミュニティ協議会（浜コミ協）が3年前、隣接する海岸林の再生を願って、行政に働きかけてきたこと（本特集その一参照）が、行政と市民が一体となった催しとしてスタートしたことは感慨深いことです。

浜浦小学校6年生7人の力強い開会宣言の後、県知事、市長の祝辞、緑化功労者表彰（6団体）等の式典の後、汐見台住宅跡地に移動して、約600人の市民が六百本の松の苗木を植えました。2015年度までに市に残りの1,220本を植え、成長して保安林機能をもった公園として甦ります。

昼からは、野鳥の巣箱（10個）の名前発表、万代太鼓演奏、お笑いパフォーマンス、ネイチャーゲーム、自然観察会が開催されました。ブースでは新割り体験や木工教室に子供達が集まって楽しんでいました。数ヶ月前から入念に準備を重ねて、運営していただきました緑の百年物語緑化推進委員、実行委員、会場となりました浜浦小学校をはじめとして、多くの関係者の方々に深く感謝申し上げます。



▲市長挨拶



野鳥の巣箱づくり

緑の百年物語フェスティバル開催を機に、野鳥の巣箱を、ネムの森に設けることにしました。小学生から応募された、89件の中から、10人の名付親が「小鳥さん、たくさんこの森に来てね」と願って、3色の巣箱に書きこんでくれました。



汐見台住宅エリア 活用連絡協議会

汐見台エリアの保安林再生整備が継続的におこなわれるように、行政と地域団体、NPO等で構成する連絡協議会（仮称）を立ち上げます。

「未来へつなぐ森づくり」を合言葉に、実のある協議がおこなわれ、緑あふれる保安林機能をもった公園に甦ることを願っております。

第5回 浜コミ協合同演奏会

地域の宝——合同演奏会

新潟市立浜浦小学校 校長 本間則昭

浜コミ協の合同演奏会も、今回で第五回目を迎えました。私は、これまで、様々な地域の学校に勤めてきましたが、地域が実行委員会を組織して、地域の学校による合同演奏会を開催しているところは他に知りません。本当に素晴らしいことですし、地域の文化度の高さを感じます。



▲開演を待ちわびる人々

特徴的なのは、小学校、中学校に加えて大学が入っていることです。小学校と中学校の演奏は、それぞれの年齢に応じて、音楽の楽しさや美しさを誠実に追求している様子が感じられました。また、大学は、親しみのある選曲とパワフルなサウンドで、十分に楽しませてくれました。それぞれの学校が、それぞれの持ち味やよさを十分に発揮していたと思います。

会場となった日本歯科大の講堂の中は、とてもなごやかな雰囲気でした。集まって来てくださった地域や保護者の皆さんが、見守るようにして演奏に聴き入り、大きな拍手を贈っている様子が温かさを感ずりました。

裏方として働いている実行委員会の皆さんの動きも、すばらしいと思いました。私自身、音楽会の裏方の仕事を数多く経験しているので、その苦労がよく分かります。浜コミ協の皆さんの、チームプレーのよさを感じました。隠れたもう一つの名演奏です。

合同演奏会を終えて

演奏した生徒の感想文を紹介します

新潟市立関屋中学校 教諭 高井久美子

最後の演奏

部長 羽入星矢

先日、浜コミ協合同演奏会に参加させて頂きました。三年生なのでこれで三回目の出演ですが、毎年この演奏を楽しみにしています。客席が近く、皆さんの反応を肌で感じられるステージは、音楽ホールとは違う良さがあります。今年も三年生として精一杯の演奏ができ、良い思い出となりました。このような素晴らしい機会を下さった浜コミ協の方々や地域の皆様に、深く感謝しております。今後も後輩達にも続けていって欲しいです。

最後の演奏

副部長 渡辺克樹

先日は素晴らしい演奏会に参加でき、とても楽しかったです。この演奏会は、三年生の最後の演奏会で、今まで支えて下さった保護者の皆様・地域の皆様に感謝の気持ちを伝えられるように演奏しました。演奏が終わると、温かい拍手をいただき、とても嬉しかったです。音楽は聴いている人も演奏者も感動と一緒に共有することができます。また、元気になったり、勇気を持つことができ、素晴らしい力があります。楽しい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

笑顔とともに

副部長 川嶋康子

先日は浜コミ協合同演奏会に出演させて頂き、ありがとうございました。浜コミ協は、私たちが地域の方々の前で演奏させて頂いた貴重なステージであるとともに、三年生の引退ステージでもあります。また、私は浜コミ協で、大会とは違う会場の皆様と音楽をつくる楽しさを味わわせていただきました。そして、皆様の笑顔や温かい拍手は大きな励みになりました。三年間、ありがとうございました。



音楽する喜びを体感

新潟市立浜浦小学校 教諭 内海昭彦

浜浦小学校の器楽部は今年で五回目になる浜コミ協合同演奏会に毎年参加させて頂いていきます。私は、今年度から器楽部を担当し、どんな感じの演奏会になるのか、ハラハラドキドキしながらの演奏会当日でした。

浜浦小学校の器楽部の活動は、原則として毎週木曜日と金曜日の一時間程度です。六月から本格的に練習を始めて、演奏会までは約三か月。その間、行事等で練習ができないこともあり、今回演奏した四曲をマスターした子どもたち。楽器の演奏には、技術の習熟のための時間が必要なのですが、浜浦小の子どもたちは、短時間の練習で、士が水を吸うごとく、どんどんと吸収して上達していききました。

当日の演奏はいろいろとハプニングが起きましたが、子どもたちの気合いと真剣さが伝わる演奏だったのではないのでしょうか。演奏を終え、充実した笑顔の子どもたちの顔を見て、「音楽を発信する喜び」を大いに体感してくれたのではないかと感じました。

自分が住む地域に、このように演奏を通して「音楽する喜び」を体感することができる環境が



あるということは素晴らしいことだと思います。その意味で、浜コミ協合同演奏会は地域ぐるみで子どもたちを育てていただく、格好の場として存在していると感じています。多くのスタッフの方々と、地域の皆様方の温かい拍手に支えられて、子どもたちにとって、とてもよい機会となったと思います。大変ありがとうございました。

楽しかった 学生生活最後のコンサート

日本歯科大学新潟生命歯学部 教授 五十嵐 勝

今年のファイフティストームズは、日本歯科大学新潟生命歯学部にある軽音楽部とPMAの二つの音楽部の混合メンバーで結成しました。ヴォーカル、ギター、ベース、キーボード、ドラムスの5名の5年生にアルトサクソフスが加わる構成でした。

歯科大学の部活は、大学生活の6年間のうち、5・6年生は病院実習や授業に忙しくなるため、体育系部活と文化系部活がともに4年生までが現役部員として活動します。つまり、5年生は既に「OB」であるため、実はこの浜コミコンサートが大学時代最後のコンサートとなります。関屋中学の吹奏楽部の3年生が引退演奏となるのと同様に5年生だけで構成した今年のバンドメンバーにとっては引退後に行く最初のコンサートで、そして学生生活最後の楽しいものとなりました。

演奏した7曲は、演奏会に来られる方々の年齢層を意識し、歌謡曲を中心にテレビ主題歌と演歌を加えて選曲し、来場された皆様と楽しく気軽に聴けるものになればと考えました。小学生と中学生の間にホッとす



る時間を作ることを使命に演奏できました。今年で5回目を迎えました。第1回目の浜コミの際に会場係として会場作りに参加してくれた新入生がステージに立っており、時間が経つのが速いことに驚きました。これから先輩から後輩に受け継がれていくものと心から喜ぶとともに、今後も地域の皆様と仲良くお付き合いさせていただきたいと大学では思っております。宜しくお願いま

第三回フロアカーリング 体験研修会

文化スポーツ部会
部会長 中静浩二

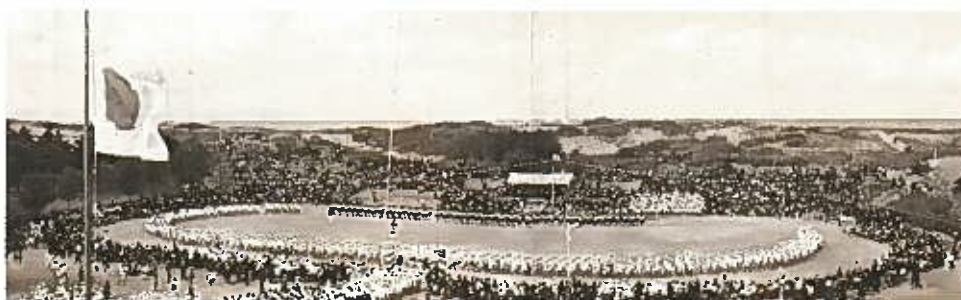
昨年、十一月十日、天候は肌寒い日であったが浜浦小体育館は熱気と歓声に包まれました。参加十六チーム総勢八十名(大人四十八名児童三十二名)の他、役員、保護者十名が運営して開催。四チームリーグ、決勝トーナメント戦を実施、見学の藤井教頭先生の激励もありスーパースhotsが続出、その結果、児童同士の決勝となり浜浦コスモスCチームが優勝し好評の内に終了した。ご協力頂いた南区スポーツ推進委員、浜浦スポーツ振興会役員の皆様に御礼申し上げます。



昭和三十年から 未来へ

金衛町第二自治会
会長 今井昭雄

写真は、生まれた時からわが町にお住まいの方からお借りした一枚です。昭和三十年頃(約六十年前)、浜浦小学校の校舎から撮った運動会で、砂丘と日本海が見渡されます。今は、この一帯は、大きな松林で海からの強い風や砂が飛ばぬのを防ぐ私生活を守る大きな役割を果たしています。新潟の地震の復興にも一役買ったこの地域は、未来へつなぐ森づくりが急がれています。「緑百年物語」の一ページです。



「お互い様」「おかげ様」

関新三丁目町内会会長 樋口一興

東京五輪・パラリンピックスが二〇二〇年に決定し、明るいニュースでこれから日本が元気になるのではと報道されています。その後リニア中央新幹線が二〇二七に、品川から名古屋までルートが発表されましたが、二〇二〇年まで七年、二〇二七年まで一四年、団塊世代としては、それまで元気で間

に合うか微妙と思いますと複雑な気持ちです。今年団塊世代が六五才になり人口の四分の一の高齢者入りをし、高齢化社会になりました。最近地震や災害などの情報が目に付きますと、これからの高齢化社会には、地域間で協力と助け合いをしなければと、感じていたところ、九月の越谷市で

「お互い様」「おかげ様」の言葉が思い浮かびました。これからは浜コミ協の一員として「お互い様」「おかげ様」の誠心で地域活動をしていきたいです。

今年には雪のない年明けで除雪の苦労もなく春らしい日和になりました。さて本誌十号の特色はページ数を六ページから八ページに増やし見開きを多くとりました。森と植樹をテーマにした特集ページ(四〜五ページ)は二面が一面に見えるよう地模様を流して工夫しました。次に一ページのアンケート結果報告を強調するため、インパクトのある資料集めに力を入れました。結果、空撮による迫力ある写真掲載することにしました。

更に地元の方からはなつかしい貴重な写真を提供していただき紙面を飾ることが出来ました。ありがとうございました。そして多くの方々のご協力ご指導に深く感謝、感謝。ありがとうございます。

シテイマラソンの ボランティアに参加して

汐見台第三自治会会長 長谷部 玲子



昨年、十月十三日「新潟シテイマラソン」のフルマラソンコースが、海沿いの「タコ公園」の道路が、給水場所になっていました。ボランティアのボランティアアさんの指示により、

多くの人により、後片づけも短時間に終わりました。この場所だけでも六、七十人のボランティアの参加でした。全体で二千人近いボランティアで、この大会は行なわれました。

「緑百年物語」の一ページです。

今後、多くの人に何かの機会がありましたら、ボランティアに参加してもらいたいと思います。一人の小さな力でも、多くの人々で大きな力となります。半日間でしたが、良い経験になり、楽しい時間を過ごさせてもらうことができました。

編集後記

総務部会部会長 小竹昭男

今年には雪のない年明けで除雪の苦労もなく春らしい日和になりました。さて本誌十号の特色はページ数を六ページから八ページに増やし見開きを多くとりました。森と植樹をテーマにした特集ページ(四〜五ページ)は二面が一面に見えるよう地模様を流して工夫しました。次に一ページのアンケート結果報告を強調するため、インパクトのある資料集めに力を入れました。結果、空撮による迫力ある写真掲載することにしました。

更に地元の方からはなつかしい貴重な写真を提供していただき紙面を飾ることが出来ました。ありがとうございました。そして多くの方々のご協力ご指導に深く感謝、感謝。ありがとうございます。